

「庭でカモシカに遭遇(2)」

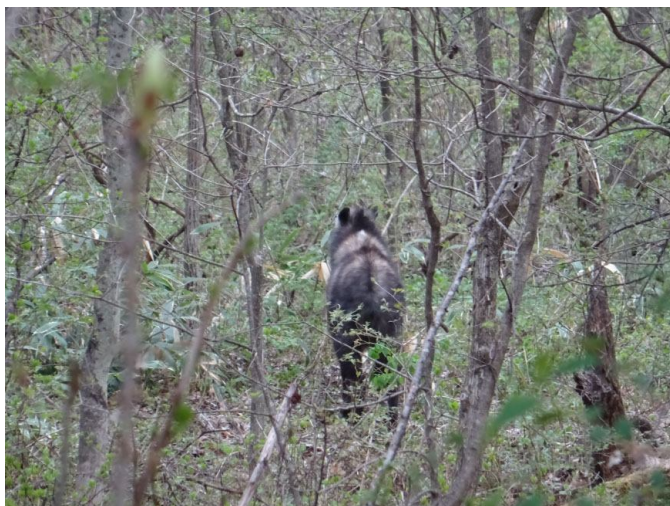
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

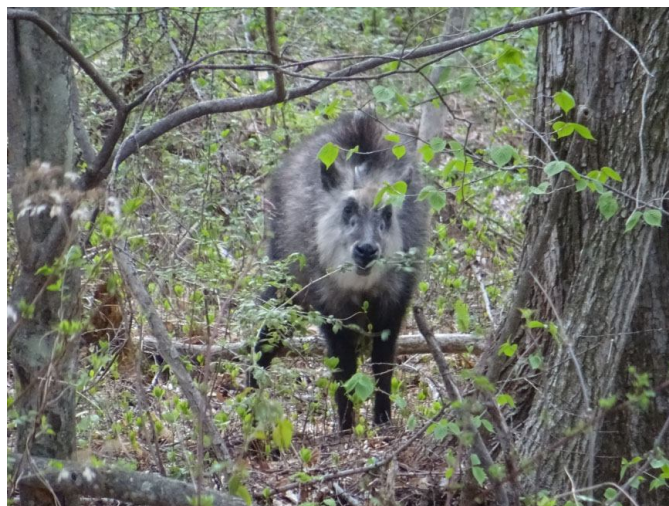
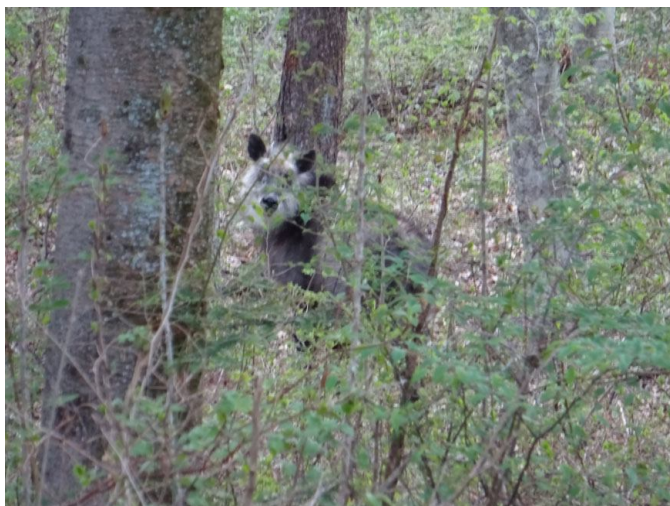
田中 千尋 Chihiro Tanaka

前回紹介した哺乳類のほかにも、ウサギ、ニホンジカの親子、雪上のリス、滑空するムササビ、電線を渡るニホンザルの群れなども見た。本州の野生動物である程度の大きさのものは、すべて出現すると言って良いだろう。まだ見ていない大型哺乳類は、ツキノワグマ(※)、ニホンカモシカぐらいだった。

(※)「ツキノワグマ」は「月見うどん」と同じ抑揚で発音されることが多いが、これは誤り。意味は「月の輪・熊」なので、「戸隠そば」と同じ抑揚が正しい。



先日、山荘を囲む林に、黒い獣が現れた。後ろ向きで、ほとんど微動だにせず、じっとしている。ついにツキノワグマが出現したか?と思ったが、クマとしては脚が長い。イノシシにも見えた。しばらくすると、こっちを向いてくれて正体がわかった。カモシカだ!



明らかに私と目が合っている。こっちに人間がいることは認識しているようだ。私は山荘の部屋の窓から見ていたのだが、しばらくは「にらみ合い」が続いた。



私を「人畜無害」いや「獣畜無害」と判断したのだろう。ゆっくり林から出てきて、山荘の母屋のほうに近づいてきた。カモシカは、野生動物(哺乳類)の中では、比較的人間に対する警戒心が薄いと言われている。しかし、自分のほうから近づいて来るとは驚きだ。



部屋から見たカモシカ。明らかに至近距離である。